

## ことわり

- ① 一般的に、漢方薬を解説する書には処方を選別するためのさまざまな身体所見が紹介されている。しかし、投与に必須となる所見であるのか、あるいはあれば典型的な症例であるかの別が記されていない場合がある。本書においては投与に際し、必ず確認の必要があるものを**必須となる身体所見**として著した（第4, 5章 **症例へのアプローチ欄**）。
- ② 本書では、基本的に健康保険の適応となっていて、かつエキス剤として流通している処方を扱った。しかし、理解を助けるため、例外的にエキス剤にないものに\*印をつけ一部記載した。
- ③ 漢方薬は、それを構成している生薬の働きから効能を知るべきであるという主旨から、処方を構成している生薬のみを記載し、分量は割愛した。煎じ薬として処方を希望される場合には他の書物を参考にされたい。
- ④ 第4, 5章に掲載している**症例へのアプローチ**には、実際の臨床でよく遭遇するものを選んだつもりである。当然のことながら、個々の症例には個別の事情があり、所見などそのすべてを記載したのでは普遍性に乏しいものとなる。本書では、多くの症例に共通して応用可能になるようにという視点から解説を行った。決して紹介処方と病名だけをセットにして記憶されないことを望む。